

地元と一緒に取組む探究学習と地域づくり

－ 交流、学習、実践の方法論 －

出川 真也

社会教育士

大正大学地域創生学部 専任講師

特定非営利活動法人 里の自然文化共育研究所 理事長

はじめにー自己紹介ー



▶ 地域創成の教育学

- ・ 地域での学びに関する研究

研究室：地域創成の教育学, <https://degawaken.com/>

▶ 里の自然文化の共育活動

- ・ 農山漁村の自然と文化を共に育てる実践

NPO法人里の自然文化共育研究所, <https://sato-ken.org/>

▶ 参加型地域教育アセスメント（評価）研究

- ・ 自分たち自身で学んだ成果を評価し、次につなげる研究

エンロールメント・マネジメント研究所 <https://emir01.tais.ac.jp/website/>



1. 地元学 ー地元で学ぶということー

- ▶ (1) 聞き書きの手法
- ▶ (2) 質問のコツ
- ▶ (3) 見える化するということ
- ▶ (4) 調査の場の設定





Handwritten text at the top of the first page, including a title and a date.



Handwritten text at the top of the second page, including a title and a date.



Handwritten text below the photograph on the second page.

Large block of handwritten notes on the left side of the page, including a list of items and their prices.

Handwritten text at the top of the third page, including a title and a date.



Handwritten text below the photograph on the third page.

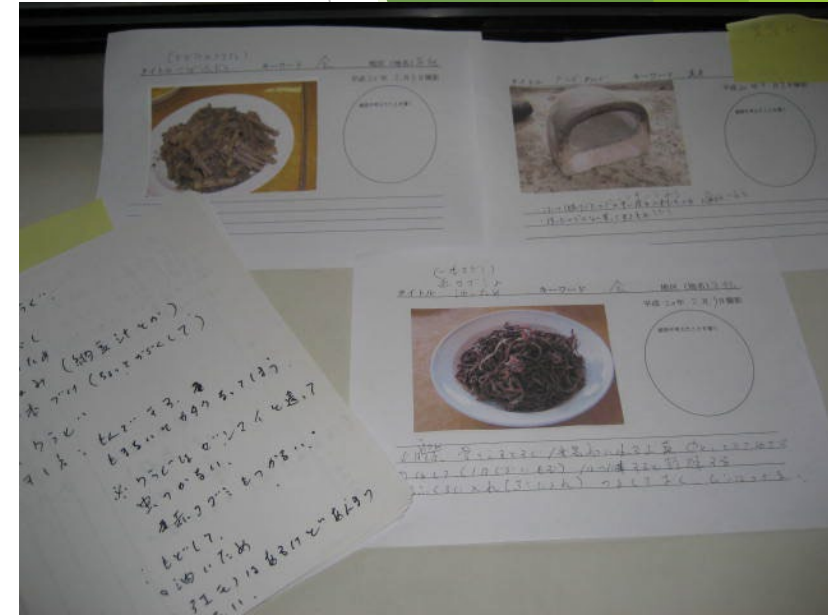






地元学の成果物

- ▶ 地域マップ
- ▶ 地域資源カード
- ▶ 地域の歳時記



自分たちの調べ作成した一次資料を基にこれからの地域づくりを考える。

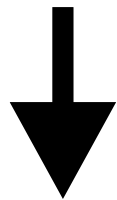
祭り・行事

仕事

**山、畑、田んぼ
など**

遊び・楽しむ

**川や山での
魚釣り、泳ぎ、
山歩き、山菜とり
など**

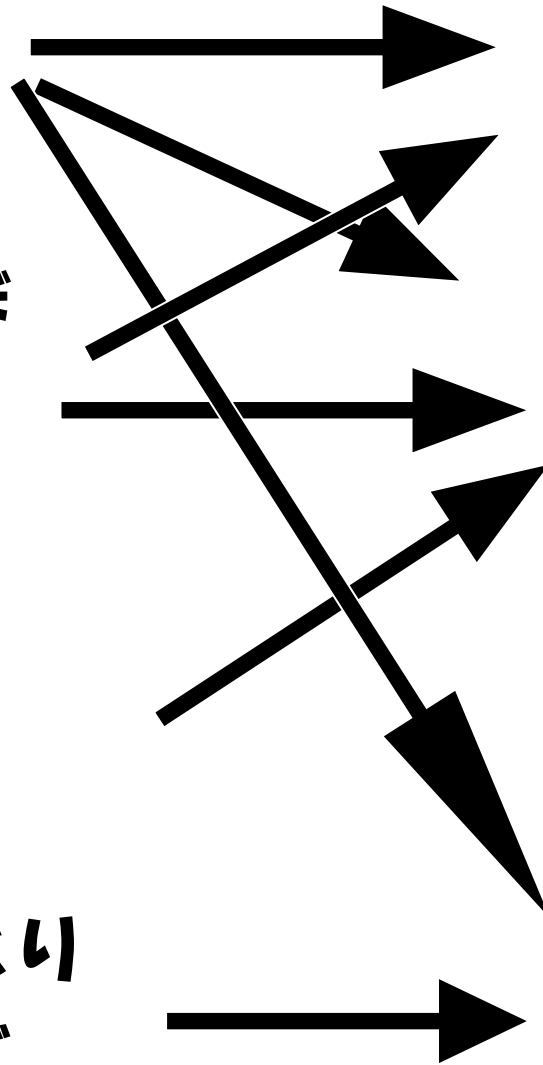


地域に根ざした手作り地域産品

**お手伝いツアー
ワーキング・ホリデー**

参加・体験

**見る・眺める
聞く**



まずは、探求のための機会を日常の中で つくろう

- ▶ ヒヤリングや資料収集だけではない
- ▶ 日常の散歩、地域でのお茶のみ、コミュニティカフェなど
ショートトーク、笑い話や面白い冗談を大切に。。。

2. 学んだ成果を論理的に整理してこれからの学びと実践に活用しようーロジックモデルとはー

- ▶ (1) これまで探究授業で、
 - ①資源（学習のために何を使いましたか）
 - ②活動（どんな学習をしましたか）
 - ③アウトプット（その結果どんなことを知りましたか）
 - ④アウトカム（知ったことを生かして、どうしたいですか）
を特定化する

- ▶ (2) 活用事例
 - ①調査での活用
 - ②ふりかえりでの活用
 - ③計画づくりでの活用

〈問題の設定〉

プログラムで活動しようという問題についての記述

〈目標〉

意図した目的、またはプログラムをとおしたインパクト

〈アウトカム〉

プログラムから結果する期待した変化＝クライアント、コミュニティ、システムあるいは諸組織における変化

〈根拠〉

なぜ、プログラムの活動は、結果を生み出すのか。

〈前提〉

プログラムの成功に必要な、どのような要因がすでに存在しているのか。

〈資源〉

提供される、あるいはプログラムによって使われる人、時間、資材、資金など

〈活動〉

望ましい結果を達成するためにとられる諸行為

〈アウトプット〉

プログラムの活動により、明確で、直接的に生み出すもの

〈外的な諸要因〉

プログラムの結果に影響；プログラムのコントロールを超えた条件

例えば. . .

潮流発電の探究授業の場合など

- ▶ 資源 海 潮流 発電機 電力会社の方 . . . など
- ▶ 活動 潮流発電見学・お話を聞く . . . など
- ▶ アウトプット 潮流の仕組み、発電の仕組みなど自然の保全と活用の方法を知った
- ▶ アウトカム 自分たちでできる環境保全の活動を具体的に構想し実践したい

3. ワークショップーロジックモデルづくりにチャレンジ

- ▶ (1) これまで皆さんが、探究授業で取り組んだことを振り返って、以下の4つについて整理してみよう (シート1)
 - ①資源 (何を使って学びましたか)
 - ②活動 (どんな学習をしましたか)
 - ③アウトプット (その結果どんなことを知りましたか)
 - ④アウトカム (その知ったことを生かして、どうしたいですか)
- ▶ (2) 見えてきた課題 (達成したいこと) も整理してみよう (シート1)
- ▶ (3) これら踏まえて今後実践したいことを整理してみよう (シート2)

→結果をグループごとに発表 4～5分×4グループ

4. ロジックモデルの真のねらいとは

- ▶ 交流・学習・実践の参加促進ツールとして
 - ・ 様々な人々 — 高校生、若者、子どもから高齢者まで —
 - ・ 様々な組織 — 行政、町内会、サークル、企業・事業者 —

「すべてのステークホルダーが参加して対話のなかですすめるために、参加者たちの相互理解と合意を形成する」

- ▶ 地域で楽しく交流と探究を促進する「コミュニティカフェ」のすすめ